★神戸の催し物ご案内　3月

〈音楽〉

★第11回あじさい音楽会
布野ゆき子・坂本環
2日（金）7時　神戸文化中ホール　一五〇〇円

★上月晃
6日（火）6時半　神戸文化大ホール　S・三〇〇〇円　A・二五〇〇円　B・二〇〇〇円

★五輪真弓
8日（木）6時半　神戸文化大ホール　A・二五〇〇円　B・二〇〇〇円

★マッコイ・タイナー
9日（金）6時半　神戸国際会館　S・三〇〇〇円　A・二五〇〇円　B・二〇〇〇円

★ロッテルダム・フィル
指揮／エド・デ・ワールト

エド・デ・ワールト

10日（土）6時半　神戸文化大ホール　S・四〇〇〇円　A・三〇〇〇円　B・二〇〇〇円

★テレマンアンサンブル
バッハ「マタイ受難曲」
14日（水）6時15分　神戸文化中ホール　指定・二〇〇〇円　当日指定・一五〇〇円
指揮／延原武春　福音史家／西垣俊朗　イエス・小村亮三

★第2回こうべ市民音楽祭
大賞フェスティバル
クラシック部門
14日（水）6時　神戸文化大ホール　整理券
15日（木）6時　神戸文化大ホール　ポピュラー部門　整理券

★厳本真理弦楽四重奏団
16日（金）6時半　神戸文化中ホール　神戸音楽友の会／会員・二〇〇〇円　一般・二五〇〇円

★浦川宜也／フランツ・ルップ
デュオの夕べ
17日（土）6時半　明石市民会館中ホール　一般・一四〇〇円　学生・一〇〇〇円　親子・二〇〇〇円　こども・八〇〇円

★菅原洋一
17日（土）6時半　神戸国際会館　民音／会員・二〇〇〇円

〈演劇〉

★劇団四季「ひばり」
13日（月）6時半　神戸国際会館　S・三〇〇〇円　A・二五〇〇円　B・二〇〇〇円
作／ジャン・アヌイ　演出／浅利慶太　出演／日下武史、浜畑賢吉、藤野節子、中町由子、影万里江、松宮五郎、水島弘、光枝明彦ほか

★東宝ミュージカル特別公演
「マイ・フェア・レディ」

栗原小巻・宝田明

22日（木）5時半
23日（金）①12時半　②5時半
神戸文化大ホール　A・四〇〇〇円　B・三〇〇〇円　C・二五〇〇円　学生・二〇〇〇円
出演／栗原小巻、宝田明、益田喜頓、財津一郎、曽我廼家鶴蝶ほか

★劇団道化座研究所卒業公演
「水中都市」
22日（木）23日（金）6時　神戸文化小ホール

★文学座「調理場」
27日（火）～31日（土）6時15分　神戸文化中ホール
4月1日（日）1時半　神戸労演／一九〇〇円
出演／北村和夫、荒木道子ほか

★民音・春の子供劇場
ミュージカル「こじき王子」
28日（水）①11時　②2時　神戸文化大ホール　民音／八五〇円

〈その他〉

★宮田隆フラメンコ舞踊リサイタル
4日（日）6時半　県民小劇場　二〇〇〇円

★人形浄瑠璃・文楽

文楽

9日（金）①1時　②5時半　神戸文化中ホール　一階・二〇〇〇円　二階・一五〇〇円　学生・七〇〇円

★県民土曜劇場
清元古典三題を踊る―芳一の会
17日（土）3時　県民小劇場　二〇〇〇円／花柳芳一

★狂言小劇場
20日（火）6時半　神戸文化中ホール　前売／A・二二〇〇円　B・一二〇〇円
出演／茂山千五郎、茂山千之丞、茂山正義、古谷哲也、藤舎推峯

★チャリティ映画会と講演のつどい
映画「イーハトーブの赤い屋根」講演／伊藤友宣
24日（土）2時　神戸文化大ホール　六〇〇円

俺たちの交響楽

★松竹映画「俺たちの交響楽」
ロードショー20名ご招待！
山田洋次原案。松竹の若きエース、朝間義隆監督の第一回作品。川崎を舞台に繰り広げられる明るいタッチの青春感動篇。出演は武田鉄也、友里千賀子、永島敏行他。3月1日より国際日活において公開。併映「幸福の黄色いハンカチ」ご希望の方はお葉書で。

●愛読者招待席

神戸っ子読者左記の催しにご招待

★浦川宜也／バイオリン
フランツ・ルップ／ピアノ
デュオの夕べ
3月17日（土）6時半　明石市民会館中ホール（10名様）

★狂言小劇場
3月20日（火）6時半　神戸文化中ホール（20名様）
出演／茂山千五郎・茂山千之丞・茂山正義・古谷哲也・藤舎推峯

ご希望の方は葉書に住所・氏名・年令・職業を明記の上、神戸っ子編集室「デュオの夕べ」係、「狂言小劇場」の係まで

●愛読者優待席

神戸っ子読者に左記のステージを割引優待致します

★テレマンアンサンブル
バッハ「マタイ受難曲」
3月14日（水）6時15分　神戸文化中ホール
二〇〇〇円を一割引

★アンスガー・ヤンケ
片山晴美
モーツァルトとシューベルトの夕べ
4月5日（木）7時　神戸文化中ホール
二〇〇〇円を一割引

★グラシェラ・スサーナ
4月8日（日）4時　神戸国際会館
S・三〇〇〇円　A・二五〇〇円をそれぞれ一割引

★キース・ジャレット
4月9日（月）6時半　神戸国際会館
S・三八〇〇円を三五〇〇円に

★ジェームズ・ゴールウェイ
フルートリサイタル
4月25日（水）7時　神戸文化中ホール
A・三〇〇〇円　B・二五〇〇円　C・二〇〇〇円をそれぞれ一割引

ご希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集室・優待係〈川崎〉まで

よその子も育てたカンガルー母さん

不幸にも生みの母さんは亡くなったけど、新しい母さんカンガルーが、腹袋の中で赤ん坊カンガルーを守ってくれます。ヨカッタネ！

【母カンガルーの死】

体毛に包まれたカンガルーの育児のうは正にコンピューター制御の哺育器である。その暖かかった、母さんの腹袋が、突然に冷たくなったのである。そればかりではない。かたときも離さなかった乳首も冷たく、ピタリと乳がとまったままだ。空腹に動きだした赤ん坊カンガルーは、かすかな声でキュー、キューと母親を呼び続けたのであろう。

だが、不幸にも、必死の泣声に何の反応も示さない。くずれるように横たえた母の袋から、やっとの思いでぬけ出たがやはり母さんカンガルーは眠ったままだ。さらにチューチュー、チューと小さな小さな声で母を呼び続けていた。それは正に命の叫びだった。人間の私共には殆んど聞こえぬぐらいの小さな小さな叫びである。

〝ギャー〟耳が破りさけるばかりに大きく泣き叫ぶことのできるヒトの子供たちは幸せである。その泣声に走り寄ってくる親の愛情を一身に受けて育てられた、親と子の幸せな泣声のきずなであるからだ。

だが、不幸にも幼くして母を失くした子は大声で泣くことを知らない。幾ら泣こうが母には抱いてもらえない、そればかりか他人さまへのはずかしい思いが先に育つのであろうか、片隅に、じめじめと身をひそめて泣いているのです。

「幼児は大声で泣く子ほど明るく幸せな家庭で育っている」という、ある教育者の言葉をふと私は思いだしたのである。声帯をもつキリンの泣き声が現在も〝謎〟とされているが、さらにカンガルーも、泣かないという説も多かった。泣声を耳にすることは至難にひとしいキリンの声とは違い、カンガルーは確かに、まことに可愛い小さな声で泣くのである。

弾力を失ない狭まった母親の育児のうに幾度も幾度も顔を入れ、はいりこもうと、努力しても、もう冷たくなった袋の中に長くはおれないのだろう。やっとの思いではいりこんでもすぐさま出てしまった子は、横たえたままの母親の周囲を無心に駈け回る姿はあまりにも哀れだった。

その日、昭和五十三年十一月二十五日、午後二時頃、母親の死という報せに集まった係員。とっさに、「えらいことや、このままやと、赤ん坊カンガルーも死んでしまう」

母親の斃を収容する一方、すぐさま人工哺育の準備に走った。だが、まてよ、この赤ん坊、つい先日来、時折り袋から出ていたことを観察していたこともあって、生後月令五カ月にはなっている。とすれば、もう離乳期を迎えているはずで、ひょっとすれば、独りだちしてくれるかも知れない。そんな期待をひそめて一両日は経過を見守ることになった。

それにしても、母親の姿をもとめ、いとしく群の中に駈けこんでは、見当らない母さんにあるたけの力で背のびしては辺りを見回す赤ん坊カンガルーに〝大丈夫だろうか〟一沫の不安を感じないではおれなかった。

【赤ん坊カンガルー行方不明！】

果たして翌日、その不安が現実となった。「赤ん坊カンガルーが行方不明や」

何処をどう探しても、全十六頭やっぱりおらへん。畜舎の床の下や、水槽の中に落ちこんではいないだろうか、いや、この秋以来カラスの大群が園内をたむろしている。襲われたんではなかろうか、山積された干草を何度ひっくり返して見たか分らない。やはり見当らないのである。

そんなことあれへん、さっきまで餌箱に顔入れていたという声も耳にした我々、ふと小屋の隅に逃げこもうとする、メス親カンガルーに視線が止まった。

ちょっとまてよ、あの親、どうも袋が大きすぎへんやろか、うん、そういえば下に垂れ下りすぎて、地面にひきずっているようや。いや、それでも、子の顔はひとつしか出てない。まさかそんなことないだろう。だが、その異常に大きい袋がピクピクと常に動き回るものだから、歩きにくいのであろう。動く子に腰をかがめた母親もまた、暇なく腹袋に感心を示し続けていた。一頭とちがって、二頭が入ったものだから、赤ん坊の肢や太長い尾がからみあって狭いのであろう。時にはもう破れそうにもなって袋が動いた。と次の動きのあと、ぽろりと、もうひとつの小さな顔が、袋からでたのである。

自分の子供もちゃんと育てない無責任な親が多い人間社会、よその子も自分の腹袋に入れてわけへだてなく育てるカンガルー。うーん、考えさせられますね。

あっ、やっぱり、その小さな赤ん坊カンガルーの二つの顔を見た誰もが感動を胸にしたに違いない。よかったよかった。それにしても、あの、〝よその母さん〟偉いなあ！小さなふたつの顔を区別なくペロリペロリ舐めてやっているではありませんか。

【寝袋期の五カ月令】

しかし、もし、この赤ん坊が三カ月令までの子だったらどうだったであろうか。よかったなあ、お前、母さんに感謝するんや、生後三カ月令では、まだお前は離乳されていない、袋の中にある四つの乳首のうち、ひとつの乳頭に吸いついたまま手肢の発育をじーと待ち続けているさなかだ。その三カ月令までの腹袋の中は、適度に湿っぽく乳はどんどん分泌されまさに育児のうである。そうした時期、不幸にも親の死に襲われた子は、直ちに人工哺育してやらなくては、先ず助からない。だが、幸にも、このたびの母の死は、不幸中の幸だった。五カ月令という離乳がすでにすまされ、もはやこの時期の腹袋は、たとえ乳が出なくてもいい。くるりと、回転レシーブの格好で母さんの袋の中にころがりこんで、ただ眠るだけでいい。つまり〝寝袋期〟を迎えていたからである。

その寝袋でやさしく迎えてやったよその母さんは十七年、オーストラリア、サウスパース動物園から来園以来、現在まで五度の出産を経験し、しかも同じく来園し共に過した、正に姉妹のような友を亡くした、悲しさをしみじみかみしめたことであろう。その長年の友の忘れ形見を、いや〝よその子〟を見事に育ててくれたのである。

〈王子動物園学芸員／写真も〉

★神戸の集いから

★旭堂師の琵琶を愛し楽しむ会

ぽんぽりが揺れて、春はもうそこと感じられる1月31日の宵。生田神社会館で女流琵琶の柴田旭堂さんの後援会発足パーティが、開かれ約一三〇名の人々が、〝旭堂さんの琵琶を楽しむ夕べ〟に集った。

鏡開きを行なう旭堂師と三木後援会長

「国際都市社会のめまぐるしい動向の中で文化を大切に。心のゆとりとやすらぎとして伝統文化を支え発展させたい」と三木重昭後援会長。光田神戸新聞社長は「世界に通じる文化としてのパイプ役を」土井芳子さんは「世界中の女性が手を握って文化を大切に」山本敏郎文化局長は「琵琶の楽譜化は伝統文化を大衆に近づけた」とメッセージ。旭艶さんの新曲「流れ」旭堂さんの「四条畷」を聞き、生田の獅子舞を楽しむ典雅な夕べだった。

★武蔵野美大の新春の集い

武蔵野美術大学のOB会の兵庫県支部の新春の集いが1月21日（日）扇月堂5階ホールで午後5時から賑やかに開かれた。「'79新春武蔵美まつり」晋通のOB会とは一味違う雰囲気である。それもその筈中心になっているメンバーを紹介すれば納得がいく。兵庫県支部長は佐藤廉（S20卒日）、世話人が、丸本耕（21・洋）、中西勝（22・洋）、西村功（22・洋）、藤原向意（29・洋）、山田憲三（32・教）、古川清（38・洋）、羽多悦子（49・油）といった人たちである。司会はNHKの小池晴二（32・洋）さんと多彩な顔ぶれ、したがってアトラクションもなかなかの充実ぶりで「せり市」から「ダービー」「演芸大会」などで大変な盛り上がりよう。ゲストの長島隆（神戸地下街専務）や伊藤誠（神戸新聞事業局次長）氏も武蔵美パワーにびっくり、大賑わいの新春の集いだった。

武蔵美まつり一堂勢揃い

★ギャルリー神戸では藤谷明正さんの個展が

シンプルな形で光と影を表現しようと、スペースファンタジーを感じさせる作品が並んだ藤谷明正さんの個展が2月5日から11日まで開かれた。

藤谷さんを囲んで

初日、オープニングパーティが開かれ、西脇顕正、山川勝彦、芹沢豊男、片山直、永田敏明氏ら多数の友人、ファンに囲まれた藤谷さんは今回が初の個展。

「平面の中に立体的要素が感じられるものができればと、昔から光と影をテーマに追求してきたんです。単純な形の中に宇宙的な広がりをもたせたいと思い今回はモノトーンの世界を中心に発表しました。今後も、自分の内に貯まってきたものを発表していきたい」と、静かながら力強く抱負を語ってくれました。

★2月号のこの欄で、駐日インド大使アウタール・シンご夫妻の初の神戸訪問をお伝えしましたが記事中、大使の名前がまちがっていました。おわびして訂正します。

❤小泉パーティご案内

小泉パーティは

結婚を希望する男女にお見合や愛好会によって健全なご交際のお手伝いをいたします。身元の確かなことは良縁の第一条件です。身元の確かな方々の会員制の集いです。

・入会金 10,000円・年会費 10,000円

＜小泉パーティ春のハイキング＞

日時／3月25日（日）午前9時出発

コース／大師道コース：元町駅西口集合→大師道→修法ケ原（昼食）→市ケ原→布引→新神戸駅

参加希望者は前日までにお申込み下さい

小泉パーティのご案内・入会書類ご希望の方は
事務局 〒650 生田北野町3丁目10—2
淡島マンション105号 ☎078—242—0333 小泉正巳
お問合せ、ご連絡は午前中又は夜間に。

KOBECCO18

祝・月刊神戸っ子18周年

光の海へ、嵐の海へ出発とう。
新しい時が待つ豊饒の海へ。
こころ優しいこの街を背に……。

石野証券株式会社
取締役社長　石野　成明
神戸市生田区栄町通一丁目八―二
電話（〇七八）三九一―〇〇〇一㈹

株式会社　ダイエー
取締役社長　中内　功
大阪府吹田市豊津町九番一号
電話（〇六）三八〇―四一四七

関西貿易株式会社
取締役社長　竹田　剛男
神戸市兵庫区出在家町二―六―一九
電話（〇七八）六七一―六〇二一㈹

菊正宗酒造株式会社
代表取締役　嘉納　毅六
神戸市東灘区御影本町一―七―一五
電話（〇七八）八五一―〇〇〇一

ウシオ工業株式会社
取締役社長　牛尾　吉朗
神戸市生田区江戸町九五　ウシオビル
電話（〇七八）三九二―二〇一五㈹

田崎真珠株式会社
取締役社長　田崎　俊作
神戸市葺合区旗塚通六丁目三―一〇
電話（〇七八）二三一―三三二一

UCC上島珈琲本社
代表取締役社長 上島忠雄
神戸市生田区多聞通五丁目三
電話(〇七八)三四一—三六〇六(代)

兵庫信用金庫
理事長 園田正和
姫路市北条口一〇八番地
電話(〇七九二)八二—一二五五

三輪運輸工業株式会社
取締役社長 三輪吉郎
神戸市葺合区脇浜町二丁目一一—一
電話(〇七八)二五一—五〇〇一㈹

株式会社山勝真珠
代表取締役会長 山本勝
神戸市生田区山本通二丁目七七
電話(〇七八)二三一—〇〇五一㈹

株式会社ミキモト
代表取締役 本間利章
神戸市生田区山本通四丁目一二三
電話(〇七八)二二一—九八八二

島文工業株式会社
取締役社長 島田文六
神戸市灘区岩屋中町四丁目二—七
電話(〇七八)八七一—五一八一

角南商事株式会社
取締役社長 角南猛夫
神戸市葺合区小野柄通七丁目一番
(三宮ビル北館8F)
電話(〇七八)二五一—五五一一

神戸地下街株式会社
代表取締役 宮崎辰雄
神戸市生田区三宮町一丁目一
電話(〇七八)三九一—四〇二四㈹

株式会社ノザワ
取締役社長 野澤太一郎
神戸市生田区浪花町一五番地
電話(〇七八)三九一—七二二一㈹

麒麟麦酒(株)神戸支店
支店長 長山和夫
神戸市葺合区御幸通四丁目一—一
電話(〇七八)二五一—八一五一㈹

(順不同)

KOBECCO18

祝・月刊神戸っ子18周年

光の海へ、嵐の海へ出発とう。
新しい時が待つ豊饒の海へ。
こころ優しいこの街を背に……。

株式会社 三星堂
取締役社長 上林 英一
神戸市生田区山本通二丁目六
電話 (〇七八)二三一—四三四一(大代)

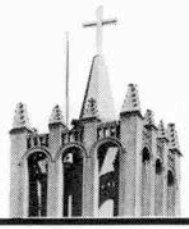
株式会社 神明
代表取締役会長 藤尾 豊
神戸市生田区海岸通六丁目四
電話 (〇七八) 三七一—二一三一㈹

株式会社 ヤマギワ電気
神戸支店
取締役店長 斎藤 守
神戸市葺合区二宮町一丁目二二
電話 (〇七八) 二四一—二一一一㈹

長田通商株式会社
取締役社長 長田 大介
神戸市生田区栄町通二丁目五〇
電話 (〇七八) 三三一—六四二一㈹

株式会社 ユーハイム
取締役社長 河本 春男
神戸市東灘区住吉宮町六丁目一五—一三
電話 (〇七八) 八一一—一二一二㈹

株式会社 木下真珠
代表取締役 木下 章夫
神戸市生田区山本通一—四二—一
電話 (〇七八) 二二一—〇四八七



冷蔵倉庫業

株式会社　兵　食

取締役社長　西村良隆

葺合区磯上通（三井生命ビル6F）

東部・摂津・七突・兵突・明石・木津各冷蔵庫

浜中・新川倉庫

今津建設株式会社

取締役社長　今津成生

神戸市兵庫区吉田町二丁目二六―四

電話（〇七八）六七一―三六三二㈹

早駒運輸株式会社

取締役社長　渡邊正二

神戸市生田区波止場町中突堤中央ビル

電話（〇七八）三二一―〇一五一㈹

包装資材・農業資材・産業資材

東神物産株式会社

取締役社長　冨永幹太

大阪市東淀川区豊里三番町三二六

電話（〇六）三二九―六一六一㈹

ドッドウエル

トラベルサービス

神戸市葺合区磯上通八―三―七（神戸明治生命ビル）

電話（〇七八）二五一―〇〇二一

大阪市西区京町堀一丁目三―三（辰巳ビル一階）

電話（〇六）四四三―八七二一

岡添真珠株式会社

栄光宝飾株式会社

代表取締役　岡添貞撫

神戸市生田区山本通一丁目一番地

電話（〇七八）二四二―二四二四㈹

ニューブーンフレッシュドレッシング

㈱N・Bフーズ

代表取締役　保田信之

神戸市東灘区魚崎西町四―一一―二二

電話（〇七八）八五一―四五九五㈹

不妊・避妊クリニック

ワシオ産婦人科診療室

室長　鷲尾隆

神戸市生田区元町通一丁目二〇―七（石原ビル）

電話（〇七八）三九一―五九一九

自由民主党

兵庫県支部連合会

会長

衆議院議員　石井一

ナニワ印刷株式会社

社長　西井二郎

大阪市北区天満一丁目九番一九号

電話（〇六）三五一―七二七一

（順不同）

〈その9〉

ケーブル摩耶駅—天上寺—黒岩尾根—市ガ原—布引

幼な友だち、わが六甲

楢崎　四郎〈兵庫県立近代美術館長〉

天上寺山門にて

私が山が好きなのは神戸に生まれたからです。今の葺合区旗塚通に生まれたので、子供の頃から布引の貯水池や市ガ原へひとりで遊びに行っていた。親父や兄につれられて市ガ原からトエンティクロス、さらに六甲山頂、あるいは再度山に回るとか、また、日曜日には家族ぐるみで山歩きをよくしたものです。

大正九年に家が諏訪山に移りました。今の神戸山手女子短大の横の大師道から再度山へよく行ったものです。山が近いものだから、中学生のときには金星台や錨山へ本をもって行ってよく勉強をした。今はこのへんはアベックが多いですが、その時分は誰もいなくて静かなので一生懸命に暗記をやったりしましたね。

一番よく山へ登ったのは中学生のときです。神戸三中時代には毎年夏に有志で金剛山とか比叡山を登った。山が好きだったのでスキーを始めたのもこの頃です。暮から正月にかけて家に居たことはなかった。殆んど信州へ行っていました。学生時代には、また、サッカーやラグビーや野球をしていたので、今でも齢の割には足腰は強い方ですね。歩くのも速いし、まあ、健脚の方でしょう。ゴルフへ行ってもキャディさんが、館長は足が速いとほめてくれる。ほめてくれるのはスコアじゃなく足だけなんです。

今は再度山へ登ることが多いですね。まだ寒くならない前には、家内をつれて、毎朝六時に家を出て灯籠茶屋まで、日曜日には大竜寺まで登りました。暖かくなったらまた始めるつもりです。中学三年の頃には登山会に入っていましてね、登るたびに茶店で署名をする。一番よく登ったのは一年で一三〇回ぐらい。一三〇回というと一年の三分の一なので簡単のように考えるが案外大変ですよ。朝、学校へ行くまでに登るか、朝登れなかったら家へ帰って来て勉強をする前に登る。雨の日でも傘をさして登る。毎日登っている感じがしてもやっと三分の一なんです。

摩耶山の記憶もたくさん残っています。まだケーブルがついていないときに小学校で摩耶山の登山もあったし父が摩耶ケーブルの建設中にもよくつれて行ってくれました。再度山には大竜寺が、摩耶山には天上寺という、そこにお参りに行く行かないに関わらずシンボルがあります。天上寺は安産の祈願によく行きますね。私には姉

北神戸をのぞむ眺望が素晴しい黒岩尾根にて（中央が楢崎館長夫妻）

が三人いるので、お産するときになると母が天上寺へ参った。それにつれられて私も一緒に行ったものです。

下から登って行くと山門のところで一ぺんへたるんです。そこで一服して階段を登る。ずい分ありますね、あの階段は。お寺の境内でまた一服。しかし、奥摩耶ロープウェイができてから天上寺へ行く人が少なくなった。ロープウェイですぐに摩耶山頂へ行くからですね。

天上寺が焼けたのは昭和五十一年の一月です。焼けてそのままになっている。できるだけ早く復興して欲しいということで私もお世話をさせていただいています。再建の予定地は天上寺がもとあったところ、奥摩耶のへんになります。今回の再建については、お寺の施設だけではなくて、青少年が修養する場といいますか、そういう施設をつくる計画があります。私は賛成です。しかし、さし当って本堂が再建されないといけない。これは仲々大変なことなので、市民運動として、摩耶山の天上寺は神戸市民のものだという意識で取り組んでいただければ有難いですね。

神戸の山は面白い。一本道だけじゃないですね。尾根伝い、谷伝いに道がたくさんある。六甲全山縦走でも途中から降りて来られる。非常に楽しい山です。ただ、縦走路はあっても横断路が少ないですね。もちろん有馬の方へは行けますが、何かあってもいいですね。それと、無理は絶対にいけない。甘くみると遭難しますよ。

この間も背負子で子供をおぶって来ている人がいましたが、小さい頃から山になじませることはいいですね。私も親父がそうしてくれたので山に親しみを覚えたんですよ。自然に親しむように小さい頃から親がしつけることは大切です。六甲山は本当にいいですよ。（談）

〈その10〉

ある日のシェール道

杣谷峠―シェール道―桜谷道―奥摩耶山上駅

南　ゆう子〈詩　人〉

シェール道にて筆者

ひょんなご縁で、以前私は六甲山の〝優秀なハイキングコース――シェール道〟の紹介文を書いたことがあった。それをこれまたひょんなことで、とあるパーティの席上、登山好きのM氏に話したことがあった。

――六甲山開発のきっかけは、明治28年に英国人グルーム氏が、同地の景勝に着目して別荘を建てたことだといわれているんですが、六甲山には神戸の外国人たちによって開かれた山路が多く残っていて、なかでも〝シェール道〟は、ガイドブックなどでも〝優秀なハイキングコース〟のひとつとして紹介されているんですね。

シェール道は、西六甲山頂部の三国池付近からでている布引川の源流に沿って、樹林のなかを行く落ちついたムードあふれる気持ちのよい散歩道で、この名のおこりは、ドイツ人のシェール氏が好んで歩いた道であるところからしいですよ。

また、このシェールさんは大の親日家でもあり、昭和45年になくなられるまで、芦屋の浜町で日本人の奥さんと一緒に住んでおられたんですが、シェールさんは自分の健康づくりのためのハイキングの習慣をもっていたということで、日曜日になると、いつも同じ時刻に同じ道を行く登山服姿のシェールさんを見かけたという人が、芦屋には幾人かいますよ。また、日本名を横江ハインリッヒと名乗っていたので、シェール道のシェールさんがあの人だとは知らなかったけれど、そういえば日曜にはいつも阪神電車の同じ車輌の同じ座席に座る登山服の外人をみかけたなどという人までいるんで驚きました。ドイツ人の民族性なのかは知りませんが、同じ時刻に同じ道、同じ電車の同じ座席なんて、まるで哲学者カントみたいで愉快じゃないですか。

パーティでM氏に話したのは、確かそんなことだったと思うが、実はその頃、私はただの一度もこのシェール道を歩いたことがなかったのである。

〝講釈師、見てきたような嘘をいい〟ではないが、そんな文章を書いたり人に話したりすると、何とはなく後ろめたいような気にもなって、機会があれば一度行ってみようと思っていたところへ、くだんのM氏を通じて今回のお誘い。もちろん、行ってきましたヨ。しかし、予備知識だけはあったものの、人間の想像力というのはか

故シェール氏を偲びながら歩くクマザサの道

くもいい加減というか、かくも果てしなく勝手にひろがって別の現実をつくってしまうというべきか、現実と紹介文とはかなりくい違いができるものでアリマス。

当日、友人から借用したヤッケなど着こみ、奥摩耶ドライブウェイの通っている仙谷峠から、古びた標識を頼りにシェール道へ。〝けものみち〟の名残りのある細い道を、クマザサをかきわけかきわけ進んでいくと、これが布引川の源流かと覚しき浅瀬へ。靴を泥だらけにしつつ、〝ホントに、シェールさんは毎週こんな道を通っていたのかな〟といぶかりながらも進んでいくと、残雪のうえに鳥の脚跡。次にはイノシシの足跡。——〝いまでもここはけものみちなんやね〟などと、しばし感激しながらさらに進むと、今度は突如ダム工事現場出現！

雪どけ水でジュルジュルになった現場付近を歩きながら、〝ここホントにシェール道？〟とスタッフともども頭をかかえて、道のまん中で地図をひろげ指でたどりながらひと論議。どうやらそうらしいというので先へ行くと、穂高湖の近くにまた標識。〝ここでよかったらしいね〟と胸をなでおろしながら、また先へ——そんな調子で何度も浅瀬を渡り、何度もクマザサをかきわけ、何度もダム工事現場に出会いながら、やっと紹介文のような散歩道へ。途中、かわうそ東谷・マムシ谷などがあり、やがてヌクトのゲートロックがみえるそのあたりで徳川道と合流。シェールさんはこの徳川道を今日の私たちと同様に左へと歩いていったのかどうかは知らないけれどこの徳川道に出るまでがいわゆる〝シェール道〟になるのだそうである。徳川道は、最近の調査で解明もされ整備もされているが、シェール道は自然道とはいうものの、無粋にもクマザサが刈りとられていたり、何度もダム工事現場が出現して道を寸断されていたり、標識がおろそかになっているというのは残念このうえない。

シェールさんの存命中は、まだこの道ももっと素朴な自然道であり、心ひかれるものとて多かったのだろうと思い、また再びそんな道に戻ればいいと念じながら下山した。

●神戸を福祉の町に〈63〉

家族の絆を大切に

橋本　明〈社団法人「家庭養護促進協会」事務局長〉

二月一日から七日まで、さんちかのインフォメーションギャラリーで「親と子の絆を求めて」（主催／家庭養護促進協会、後援／神戸市）という催しを開いた。これは里親を求める運動をより多くの人たちに知っていただくと同時に、子どもにとって家庭というものがいかに大切なものであり、親子関係のあり方が子どもの成長に大きな影響を及ぼすものである、というようなことを多少とも表現したかったのだが、難しいテーマであるだけに限られたスペースで充分には出しつくせなかったように思う。

★不安定な今日の家庭

最近は子どもの自殺や非行がマスコミで盛んに報道されるようになり、教育関係者もこの問題には頭を痛めているようであるが、これといった解決策もなく、結局は家庭のなかの親子関係や家庭教育の重要さが指摘されるにとどまっている。

年をとったお年寄りが事故や病気で施設や病院へ入り家族から切り離された生活をするようになると寿命が10年ほど短かくなるそうである。小さな子どもが家族から離れて家庭での生活を体験せずに育つと、身体的、精神的、社会的な発達の遅れやゆがみがみられるという。

人間の生活にとって家庭は何よりも大切なものであり家族は社会の基本的な集団であるが、今日ではこの家族のもつ機能が大変弱くなり、ささいなことで夫婦や親子の絆がくずれ、家庭がこわれてしまう危険が高くなってきている。

戦前の日本では三世代の同居が基本になっており、家族数も10人前後という場合も珍しくはなかったが、戦後は夫婦と子どもだけの、いわゆる核家族が増え、3～4人前後というこじんまりとした家庭が多くなってきている。子どもから老人にいたるまで、いろんな世代の人間がそれぞれの役割をもって構成されていた昔の大きな家族は、今日の家族にくらべれば比較的安定していたようであるが今日多くみられる小人数の家族では、離婚や蒸発、病気、事故、入院、失業など思いもかけない出来事で家族の生活がおびやかされるようになってきている。したがって、家庭崩壊の危機がどの家庭でも現実に起りうるものとなってきている以上、家族の福祉を守るためには生活問題をかかえた家庭の援助に力を入れることはもちろんだが、それだけにとどまらず、生活問題の発生そのものを防止し、また問題のひろがりや派生を未然に防ぐ予防的な対策に目を向け、力を注ぐことも大切になってきている。

★遠くの親戚よりも近くの隣人

長い人生の途上には思いもかけない出来事がいく度か起ってくる。その場合、頼りとするのは親やきょうだいあるいは親族であり、また友人や知人、近所の人たち、の手助けであったりする。私たちが自分の生活を見回してみればわかるように、家族の周辺に起る日常の問題や出来事は、こうした血縁関係や顔見知りの隣人たちの協

力で何とか解決しており、肉親や隣人の協力だけではどうすることもできない場合は、行政や社会福祉機関、専門家などの援助で家族の生活を支える努力をすることになる。

ところで、家族の福祉を守り、家庭を安定した生活の場としていくためには、まず何よりもしっかりとした生活設計をもち、家族のひとりひとりが仲良く協力し、助け合っていくことが大切なことはいうまでもない。さらに行政の努力と共に、地域の中でお互いによき隣人として、いざという時気軽に声をかけ、手を差しのべあっていけるような連帯意識や相互扶助の精神を培っていくことであろう。

昔から「遠くの親戚よりも近くの他人」とはよくいわれるが、まさに近くの隣人同志がお互いに信頼し、助け合っていけるようになってこそ、家族のしあわせも守られ、地域の福祉も深まっていくものである。

ごく平凡な家庭を維持していくことは一見たやすいことのようでいて、これがなかなか難しいことを日頃の仕事を通して感じさせられる。アメリカの諺に「Charity begins at home」というのがある。自分の家庭をほったらかして他人のために奉仕活動をしている人を皮肉った言葉のようだがうまく言い当てているように思う。福祉社会の基本は家庭のしあわせにある。この当り前のことをよくかみしめてまず足元の家庭をしっかりとみつめ、親と子、そして家族の絆をしっかりと築きあげてほしいと思う。

2月1日～7日
さんちか
インフォメーションギャラリーにて

上　スエーデンの写真家ベルイマンの撮影による“誕生の詩”パネル展
中　里親運動のパネルとイラスト
下　丘あつしさんの似顔絵コーナー

話題のひろば

＜I＞

●第三回神戸文学賞同女流文学賞授賞式

蒼、大原両氏に心からの拍手

本誌小泉康夫から受賞者に表彰状と副賞20万円が贈られた（上左）あと、蒼さん、大原さんよりそれぞれあいさつがあり（上右、下右）乾杯の音頭とともに賑やかな新年会に移った。会場には第1回受賞者の田辺新さん、小倉弘子さんの顔も見える（下左）。

一月十二日（金）午後六時から神戸扇月堂ホールにて「第三回神戸文学賞・神戸女流文学賞」（本誌主催）の授賞式が行われた。

本誌編集長小泉康夫の挨拶のあと、司会の小泉美喜子から受賞者の蒼竜一さん（奈良市）大原由紀子さん（高知県南国市）の紹介があり、表彰状と副賞二十万円が贈られた。そのあと、選考委員の足立巻一、小島輝正、森川達也、島京子の各先生がスピーチ。「蒼さんは国文学の素養を生かした作品を、大原さんにはどんどん新しい仕事を。受賞を次の仕事の足掛りにして欲しい」（足立）「いずれの作品も澄んだ湿っぽさのない作品で神戸にふさわしい」（小島）「それぞれ自己の文学に課題を背負っている。大いに頑張って欲しい」（森川）「これからも自信をもって書かれたらいい」（島）と激励があった。それに応えて蒼さんは「この受賞は非常に嬉しい。これからの道を指し示されたと思う。受賞を励ましのムチだと思ってますます精進したい」と、また、大原さんは「これからも頑張りたい」と言葉少なにそれぞれ受賞の心境を語った。

祝電披露のあと、米花稔神大名誉教授の音頭で乾杯、和やかな新年会に移り、観世流仕舞、ミニコンサートなどで大いに賑わった。

話題のひろば

＜2＞

諏訪根自子ヴァイオリンコンサート
弦の〝歌〟にあふれる優雅さ

上　伴奏は神戸在住のピアニスト・伊藤ルミさん
下　二百人近くのファンでいっぱいの風月堂ホール

演奏前に念入りに調律をする諏訪根自子さん

戦中派のクラシック愛好家にとって、なつかしのヴァイオリニスト・諏訪根自子さんのコンサートが、去る一月二十二日夜、元町・風月堂ホールで開かれ、約百八十人のファンを魅了した。〈主催・SAC〉

諏訪さんは、中島田鶴子、小野アンナ、モギレフスキーに師事し昭和六年の第一回リサイタルで音楽界の認めるところとなり、昭和十一年、ブルッセルに留学。以後パリ、ドイツ、オーストリア、スイス等で活躍し、昭和二十年に帰国して田中園子さんとのコンビで各地で演奏している。昭和二十六年に渡米し、アメリカ各地での演奏活動を繰りひろげて今日に至っている。

当夜のコンサートでは、期待の若手ピアニスト・伊藤ルミさんが伴奏。サンテレビの村上和子さんの司会によって開幕。いきなり四つの楽章からなる三十分の大曲、フランクの「ヴァイオリン・ソナタ　イ長調」を演奏して聴衆を圧倒。休憩のあと、バッハ「G線上のアリア」、ドヴォルザーク「ユーモレスク」、サラサーテ「チゴイネルワイゼン」など、なじみの小品を披露。女流ヴァイオリニスト第一人者の貫録を示した。

またこの日の売上げの一部が、交通遺児をまもる会に贈られた。

●春の花嫁に贈る桂 由美ブライダルショーより

その日あなたが主役です。

桂 由美さん〈ブライダルデザイナー〉にきく

ブライダル衣裳のデザインを始めて十五年の桂由美さんが、神戸で初めてのファッションショーを中川衣裳店の主催で開いた。可憐な華やかなウェディングドレス、お色直しのドレス三十点……。

――どういうきっかけでブライダルデザインを始められたのですか。

桂「母の洋裁学校を手伝っていたんです。その頃の花嫁は和装がほとんどで、洋装の場合は自分で作るか、とても高いオーダーするしかなかったんですよ。それで洋裁学校の生徒たちのドレスをアドバイスしているうちにいつのまにか専門家になっていました。ウェディングドレスを本格的に調べようとしまして、アメリカやヨーロッパに行ったんです。ショックだったんですよ。あちらは既製品があるでしょ、種類もサイズも豊富でしかも安いんですよね」

――十五年間にウェディングドレスにもブレタができましたし、花嫁さんの好みや傾向も変わりましたでしょ。

桂「以前はショー用のドレスと実際の結婚式のドレスは違っていて、実際の式にはいつも同じようなものを作ってたんです。ところが今はショーに出したものから売れていく。去年は初めての試みで、パンツスタイルを出したの。こわごわだったんですが五人ほど、普通の神前結婚で使われました。

花婿さんの衣裳も変わってきましたね。普段の装いがカジュアル化しましたでしょ、するとフォーマルウェア

ーは反対にどんどんファンタスティックになるんですね。燕尾服が復活しました。この春には色物のタキシードも紹介されます。今まで花婿さんは白か黒でしたでしょ、花嫁さんもそれに合うものしか着られなかった。男性が色物のタキシードや燕尾服だと、女性のドレスのヴァリエーションももっと広がりますし、好きなものを着れますよ」

――そのうちウェディングドレスもカラフルに？

桂　「五年程前にピンクやブルーのウェディングドレスが出かけたんですが、また白に戻りました。白じゃないウェディングドレスの動きは、何年かごとにあるんですが、やはり花嫁の『純白』というイメージがありますでしょ。ドレスの色が変わると花嫁のイメージまで変わっちゃうでしょうね」

――ロマンティックへの回帰で、今後も結婚式はどんどん華かになるでしょうね。これからの花婿花嫁にアドバイスを一言。

桂　「今日の私のショーのテーマ『その日主役はあなたです』ということですね。結婚式っていろいろな世代の人が関係しますから、方々に気を遣っちゃうでしょう。でも結婚するのは本人ですから、八方にいいようにしていると特色のない式になりますよ。あとで後悔しない式をして欲しいですね。一つでも、花婿花嫁の人生に触れられるような、個性ある結婚式ってことです。そのためには、たとえば花嫁さんは一つぐらい何か手作りをしたらいいんじゃないかしら。手袋にレースをつけるといった簡単なことでも、思い出になりますからね」

桂　由美さん

〈写真は一月十五日のオリエンタルホテルでのショーより〉

Beautiful Essay ① March

●エレンスパックとの一週間

鏡を見てニッコリ

小倉　啓子さん

〈女優・劇団神戸〉

毎朝、わたし、鏡をのぞくんです。もちろん誰でもでしょ。でもこの一週間、特に近々とまじまじとのぞくんです。効果はありやなしやと……。すると不思議ですよネ。見えてくるんです。化粧品のコマーシャルじゃないけど、昨日の私よりきれいに——。単純だと笑われるかもしれないよど、そんなものでしょう？女の気持ちなんて。だけらこの数日なんて洗顔した後クリームだけつけて、ファンデーションなしですごしてしまったりして…。科学者じゃないから毛孔をのぞくわけにもいかないし、他に実験したわけでもないから、確かにきれいになったなんて、人には大声で言えないけど、自分で思うことは勝手だし、鏡見てにんまりしてるところをみると、あのエレンスパックなるものもさすがだナと思うわけです。

以上「泡できれいになるなんて」とあまり信じなかった私の正直な感想です。

●超音波美顔器

エレンスパック

おしゃれの第一歩、それは美しい肌をつくること。洗顔、マッサージ、パックの三つの効果を持つエレンスパックは、一日一分間で若々しいお肌を保ちます。0.2ミリの小さな穴から気泡を出して超音波を発振、薬剤や化粧品は全く使わないので、デリケートなお肌の方もご安心いただけます。

水だけで

パックができます。

38,000円(10ヶ月分割もあります)

総発売元・技術指導

旭硝子株式会社

本社〒100 東京都千代田区丸の内2ノ1ノ2
(千代田ビル)特品営業部☎(218)5574

代理店

株式会社 リーベ

〒651 葺合区磯辺通1丁目1ノ20
078(251)3531(代)
健康機器販売部 251−3593・4

コウベ ファッション ソサエティ
★神戸ファッション市民大学OBによるグループ
＜神戸のファッション都市化をめざす＞
K. F. S. news 42
月刊神戸っ子内　TEL（078）331—2246
神戸市生田区東町113—1

2月2日御影アンナ・ペラで理事会
米田さんおめでとうございます

□昨年の藤本ハルミさんに続いて二年連続KFSの会員から受賞者が出たことを会員全員と共に喜びたいと思います。今回の受賞の対象になった身障者ファッション事業は、KFSの事業としても取上げていますので、大変誇りに思っております。

この事業の件を米田さんから相談を受けたのは三、四年前でした。市の職員の一人として神戸市に案件を提出したいのだが、認められた場合に協力をしてくれるか、との事でした。いつでも協力しますから実現の為に努力して下さい、と励ましていたものです。昨年、市が予算をたててくれ、実現の運びとなり、KFSの事業の一環としても取上げて参りました。現在、メンバーの内有志六名が運営委員及相談員として活躍しています。三月十日から福祉センターで作品及パネル展示会、さんちかにおいても展示会を開く予定にしています。

この事業が、役所サイド的にならずに真の身障者の為の事業として発展していくことを望みたいと思います。

KFS会長　中原　武志

田中謙司さん〈KENT〉

一口に身障者ファッションと云っても障害の度合、年令、用途等々の事を考え合せると容易な問題では有りません。自分で脱着出来ない人は外見よりも機能性を、車椅子、松葉杖の人の外出着は機能をともなうファッションを要求されます。聞いたところに依りますと施設の中で成長している子供達にとっては、自分自身が障害児であるという自覚は少なくてより美しい物にあこがれているという事です。その人達が現実にぶつかった時の事を考えると胸の痛む思いがします。

今度三月に福祉センターで開催される展示会の作品のために一応モデルを御願いした人と話合をしましたが、私共と彼等の必要と求めている物の相違点等が数多くある事を認識しました。時間をかけて回を重ねてゆく事が必要だと思います。日常生活の交流の中でデザイナーと身障者のお互が理解し合ってこそファッションは生まれて来るものだと思います。

中島正義さん〈中島洋服店〉

身障者ファッション相談事業を初めて、一年近くなります。障害者の方やご家族、養護学校の先生の話を聴くところから始まりました。一番感じたことは、障害者の方にとって便利な衣服を手軽に購入できる専門店があれば、ということです。これは福祉センターの方と相談しながら、早い機会に期待に添えるよう努力したいと思います。

私たち紳士服のメンバーは今車椅子、松葉杖の方のブレザー、スラックス、コートを手掛けていますが、仮縫、着せ付の段階で我々が考えていたよりも変化が多くてモデルの方たちにご苦労を掛けながら勉強しております。

三月の福祉センターでの展示会には、多勢の方に見ていただいて、ご批判下さればと願っています。この相談事業が多くの方に知っていただいて、軌道に乗ってくれば、電話相談や足場のもっと良い所に特設コーナーを作れるでしょう。

●3月例会

3月23日（金）ジャン・メルオーさん（菱カトリック教会）
「食べ物とファッション考」グルメであることは、現代においてファッショナブルなことなのです。

●春の公開ファッション講座

4月27日（金）立亀長三さん（ナクト・アトリエ社長）
「'79秋冬ファッションの傾向」
場所／センタープラザ11F
チケット／一般2000円（会員無料）
時間／6時開場　6時半開講
お馴染みになった立亀さんに今回も講師になっていただきます。立亀さんの講演のあとは意欲満々になるという感想続出。お誘い合わせてお出かけ下さい。

●バザーご協力のお礼

昨年、社団法人家庭養護促進協会の催すバザーに、有志の方々から物品の寄贈をいただき、喜ばれました。バザーの売り上げは里親運動に使われ、役立っています。

木綿の夢

子供の頃、私の木綿のスカートがもう小さくなって今年は着られないと、母が父の枕に作りなおしたことがありました。その枕で眠った父は、あくる日の朝、私の耳もとでささやきました。「あの枕で眠ったらネ。おまえが草っ原で飛びはねて遊んでいる夢を見たヨ。」

木綿は陽だまりの暖かさがします。

今日も今日とて、朝から大洗濯。命にかかわらなければ……と最低主婦を決め込んでいる私ですが洗濯は大好き。

上はTシャツかワークシャツ、下はジーンズかコーデュロイでオールシーズン通してくれる手軽な亭主と、生れて以来、綿一〇〇%の息子、着ていることを忘れる服が一番だと信じている私も、もちろん木綿党。だからこと・・は簡単なのです。

「あれ！　破れてる。アイツ何をやらかしたんだろう。ピンクの布でパッチワークしてふさいじゃえ。」

「この色もうあきたナ。ムラサキに染めなおそうかな。」

「だいぶん、布が弱ってきたナ。さしこで補強しちゃおう。」

「ここにアップリケすると、この世にたった一枚のTシャツになるナ。」

などともくろみながら干すのが、また楽しからずや！　なのです。

洗濯物は生きている証しのような気がするのです。太陽をいっぱい吸い込んだ洗いざらしの木綿は陽なたの香りと一緒に、子供の頃の思い出に似た陽だまりの暖かさを伝えてくれます。

息子が大きくなって、枕分の洗いざらしの木綿が取れるようになったら、私も枕を作ろう。はてさて、どんな夢を運んでくれることやら。

□絵と文　山田真紀子

アーチストとしてもアートナウ'79に出品するなど活躍する一方、コットンのプリントデザインも手がける若いママさん。
キャリアウーマンとしての資格十分の彼女、素朴な生き方が魅力的です。

ジョイント三周年

そう！

昨年のバースディ企画は、フォトハント、ミニショップ、SFハガキイラスト展、UFO写真展、ラジオ公開録音、カントリーコンサート、バースディケーキプレゼントetcでした。今年は、より以上の内容でジョイント愛好家の皆さんをびっくりさせようといま知恵をしぼっているところです。ひょっとしたらTV・ラジオの人気者が来店とかラジオの番組が毎日そっくりやってくるとか何か期待できます！

4月30日はりまで
お会いしましょう
アリススーパースペシャル チケット 発売中
4月30日PM1時30分　県立播磨中央公園パノラマ大ステージ
A 2500円　B 2000円

ジーニングライフ・ストアー・ジョイント
joint
JEANING LIFE
三宮・ジョイント
〒650神戸市生田区三宮町1丁目32番地